

課題 1

【出題の意図と対策】

川添愛氏の『わかってもらおう』ということ』からの出題である。筆者は、会話をするときに、自分の思い込みが相手に伝わってしまい、自分の意図に反して、うっかり相手の気分を害してしまうことがあるということについて、三つの例を挙げて説明している。(1)では、「説」から始まる二字熟語の知識を問うた。(2)では、文章についてのグループでの話し合いを読んで、意見文の作成に向けて、文章の内容を踏まえたスライドを作成する力を問うた。(3)では、文章の細部まで注意深く読み、筆者が伝えたかったことをまとめる力、字数や必要な要素の多い記述式の答案を作成する力を試した。(4)では、文章と話し合いの内容を踏まえた、自分なりの考えを提案できるかを試した。

【解答】

- (1) (例) 説話・説法・説教・説論など
- (2) (例) 料理や食材について無知だ
- (3) (例) 女性は A I の研究をしないという決めつけに、女性を軽く見る気持ちを感じられたため、ほめられても素直に喜べない気持ち。
- (4) (例) もしこのように自分が言ったとしたら、相手がどのように感じるのかについて気をつけて話すべきだと思う。

【解説】

- (1) 「説」から始まる「説明」以外の二字熟語を考える。「セツ」と読む漢字は「節」「設」「雪」「切」「接」など、たくさんあるため注意したい。
- (2) 光男さんのグループが作成したスライドの「1」は、レストランのウェ이터の言葉に対して、「食通の人」がどのように感じたのかを図を交えて説明したものである。「食通の人」は「イライラする」のを感じたそうなのだが、それは、レストランのウェ이터に「無知だと思われた」からである。実際は「料理や食材について」くわしいのに、ウェ이터の思い込みにより「無知だと思われた」ことが残念で、「イライラする」のだと考えられる。この「無知だと思われた」ということを中心に、どんなことについて「無知だと思われた」のかの答えとなる「料理や食材について」を書き加えて、字数以内にまとめるとよい。
- (3) 筆者は資料①の第二段落で、自分が「複雑な気持ち」になった出来事について述べている。これは、自分が「A I 関連の講演」をしたときに、参加者の方から「女性なのに、A I の研究をやってるんですか？ すごいですねえ！」と感想を伝えられたときのことである。筆者は、その「参加者の方」が、「女性は普通、A I の研究をしない」と思い込んでいることを感じ取ったのである。つまり、この人は「A I の研究は、普通は、男性が行うものである」と考えていたわけであり、こういった考え方からは、女性を軽く見ている様子もうかがえる。そのため、筆者は「褒めていただいたのは嬉しかった」のだが、素直に喜ぶことができなかったのである。これらの内容を、指定字数にまとめて答えるるとよい。
- (4) 直美さんの発言を受けて、「話をするときに、自分の思い込みで相手の気分を悪くさせないようにするためには、どうしたらいいのか」について自分の意見を書く。「気をつけるべき」とことや、「どのように行動すればよいか」を書くことを求められていることに注意する。ここでは「あなた」の意見なので、資料①の文章や、資料③の【話し合いの様子の一部】の内容に関連させる必要はない。抽象的すぎる提案や、実現不可能な内容にならないように気をつけて、実行しやすい身近な提案をできるだけ具体的に書くのがよい。

課題 2

【出題の意図と対策】

情報を得るための手段が多様化している現代ではあるが、本を読むという営みは、旧来から行われてきたものである。その本を読むという営みを行う際、どのような本の選び方があるのか、また、これから自分自身はどのように本を選んでみたいのかについて書く。作文の条件にしたがって適切な内容を述べる力、具体的な経験を根拠として挙げる力、筋道の通った文章を書く力、指定された要素を織り込みながら、字数内で自分の考えをまとめる力を見る。

【解答】

(例) (私は本を A の方法で選ぶことが多いです。なぜなら、)書店で本を手にとると、表紙のデザインや本の重さ、ペー지를めくったときの感じなどがわかるからです。この前、表紙がきれいだと思い手に取って少し読んでみたら、とてもおもしろいので思わず買ってしまいました。しかし、今後はインターネットの情報も参考にして本を選んでみたいと思います。なぜなら、本を読んだ後に、同じ本を読んだ人の感想を見て共感したり、新しい考えに気づいたりできるのが楽しいと思うからです。(196 字)

【解説】

まず、調査結果から、自分が行っている「本の選び方」が述べられた項目を選び、そのアルファベットを記入する。次に、設問にしたがって、その方法で本を選ぶ理由を書く。その際、「あなたの経験」を「具体的」に書く必要がある。そして次に、「今後どのような本の選び方をしてみたいか」について書く。それは、さきほど選んだ項目と同じ内容でもよいし、ちがった項目であってもよい。しかし、「なぜそのような本の選び方をしたいと考えたのか」ということは、しっかりと述べるようにする。以上の要素を盛り込みつつ、字数制限に収まるように注意して、簡潔に書く力が求められる。

課題 3

【出題の意図と対策】

コンビニエンスストアに関する複数の資料を題材として、資料から読み取った内容を関連づけて説明する力、社会的事象に対する思考力や判断力、表現力をみる。

【解答】

- (1) (例) 都市部やその周辺の人口が多い地域である。
- (2) 選んだ番号 ①
- (例) 販売期限の近いお弁当やおにぎりを値引きして販売することで、食品ロスを減らす。
- 選んだ番号 ②
- (例) 店内の照明を LED 化して電気の使用量を減らし、二酸化炭素の排出量を削減する。
- (3) (例) 資料 3 から読み取れる課題は、一人暮らしの高齢者が増加している、ということです。高齢者には体の不自由な方も多くいるし、運転免許を返納してしまっている人もいますので、資料 4 と関連させて考えられる、買い物に対する支援は、ドローンや自動運転の車を使って商品を届ける仕組みがよいと思います。お店からドローンや自動運転の車で荷物を運び、集会所などで商品を受け取れる仕組みをつくれれば、人手が少なくてすむと思います。

【解説】

(1) 資料 1 から、北海道、千葉、埼玉、東京、神奈川、静岡、愛知、大阪、兵庫、福岡の店舗数が多いことが読み取れる。